

|                                         |                      |                       |                             |
|-----------------------------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 主題                                      | 平穏な日々を確かなものに         |                       |                             |
| 副題                                      | 芦花ホーム看取り介護 ～ご遺族の想いは～ |                       |                             |
| 看取り介護                                   |                      |                       |                             |
| 研究期間                                    | 3ヶ月                  | 事業所                   | 世田谷区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム 芦花ホーム |
| 発表者：永嶋千秋 白石晶紀 那須康樹                      |                      | アドバイザー：石飛幸三(芦花ホーム 医師) |                             |
| 共同研究者：永田文子（東京大学大学院・助教） 田中君子（芦花ホーム 看護主任） |                      |                       |                             |
| 電 話                                     | 03-5317-1094         | メール                   | rokaj@setagayaj.or.jp       |
| FAX                                     | 03-5317-1090         | URL                   | http://www.setagayaj.or.jp  |

|                  |                                                                                                                                                                                     |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 今回発表の事業所やサービスの紹介 | 当施設では、利用者一人ひとりへの個別ケアを重視し、食事・入浴・排泄などの日常生活の介助、機能訓練、健康管理など、生活全般を支援している。また、ボランティア活動の支援・介護技術講座等の開催・教育機関との連携・福祉人材の育成など多角的な交流を通して、区立施設として地域社会に貢献しており、特に看取り介護・口腔ケア・認知症ケア・姿勢ケアに力を入れて取り組んでいる。 |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 《1. 研究前の状況と課題》

芦花ホームでは、介護保険法に「看取り介護加算」が位置づけられた平成 18 年から看取り介護に取り組んできた。

平成 21 年 3 月に、ホームにおいて平成 18 年から平成 20 年の間で看取り介護を行った方のご遺族を対象にしたアンケート調査とともに、スタッフへのヒヤリングを第 3 者が実施し、その研究結果から、看取り介護後の職員間の振り返り、ご遺族との関わり方、グリーフケアの必要性の有無が課題として挙げられた。

平成 21 年度より、課題の一つでもある職員間の振り返りとして「偲びのカンファレンス」を定期的の実施したが、ご遺族の声を聴いてはいなかった。ご家族との関わり方や想いの受け止め、グリーフケアの必要性の有無については依然課題として残っていた。

平成 21 年以降、年間で 25 名近い方がお亡くなりになる中で約 8 割のご家族がホームでの看取りを選択される状況にある。

### 《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

平成 22 年度に看取り介護の課題整理を行うために立ち上げた、看取りプロジェクトチームによるご遺族にむけたアンケートの作成と、そのアンケートをもとにした第 3 者によるインタビュー（ヒヤリング）を実施することで、ご遺族の本音の部分を引き出し、ホームの看取り介護の取り組みがどう評価されているのかの確認と、今後の取り組みについての課題の再抽出を目的とした。

また、その結果から看取り介護の満足度、グリーフケアの必要性の有無やご遺族がホームに対して今後、どのような関わりを希望されているのかの把握ができるのではないかと考えた。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

ホームにて平成21年から平成23年度の間に看取り介護を行った方の中の31名のご利用者のご遺族を対象とした。

対象利用者の平均年齢 92.7 歳

在所平均期間 4 年 6 ヶ月

続柄 妻 1 人 娘 13 人 息子 10 人 姪 1 人  
息子の妻 4 人 義理弟の妻 1 人 孫 1 人

主な項目

①医療機関ではなくホームでの看取りを選んだ理由

②看取りの時期にケアで嬉しかったこと・嫌だったこと

③今後の芦花ホームとの関わり方について  
このアンケートの内容を元にインタビューを第3者、1名が実施した。場所についてはご遺族の方の希望に沿って行った。芦花ホーム 18 人 自宅 13 人 実施期間 平成 24 年 4 月 16 日から 6 月 12 日 1 件に対するインタビュー時間は平均 64.3 分だった。また、調査結果を分析し一覧表を作成し、この一覧表からホームにおける看取り介護についての課題を抽出した。

### 《4. 取り組みの結果と考察》

アンケート結果においては、芦花ホームの看取り介護については約9割のご遺族が満足されていたことが分かった。中でもホームからの出棺（スタッフによる見送り）についてはほとんど家族の方が、喜ばれていた。その他にも、「頻回に訪室してもらった」、「声かけが優しかった」、「看取りの前からホームでのケアを信頼していた」、「自分たちの経験をこれからの看取り介護を行う人々に役立てたい」等の意見もあった。一方で反省すべき点もいくつか見つけることもでき、事例としてはご家族とのコミュニケーションが上手くいっていたと感じていたケースでも看取り介護についての認識の違い、他職種との連携の問題点などの指摘もあった。

### 《5. まとめ、結論》

今回の研究結果から入所時から家族コミュニケーションが重要であることを再認識できた。ホームでの看取り介護には満足度は高い評価をされており、ご遺族の中では既に完結されているのだと実感できた。芦花ホームとの関わりを持つことで逆に辛い時期を思い出してしまう意見もあり印象的であるが、グリーフケアについては必要とされるご遺族の方には今後、進めていき、今回の研究でご遺族から学ばせていただいたことをもとに、今後の芦花ホームの看取り介護を確かなものにしていきたい。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究は東京大学医学部・医学系研究科倫理審査委員会の承認を受け実施しており、インタビュー前に口頭と文書で倫理的な配慮について説明し、書面にて承諾を得て実施した。

### 《7. 参考文献》

廣瀬寛子（悲嘆とグリーフケア）

場所づくり研究所（プレイスの研究報告書）

石飛幸三（平穏死のすすめ）

### 《8. 提案と発信》

特別養護老人ホームにおいては看取り介護を実施しているところは決して多いとは言えないが、高齢化社会が進むに連れて、行き場のない利用者が増えてくることも想定される中で看取り介護の重要性、必要性を芦花ホームから発信していきたい。

【メモ欄】